

県と市町村との総合教育懇談会の概要

日時 平成 28 年 11 月 21 日 (月)
10 時から 12 時
場所 県庁議会棟 404・405 号会議室

<主な意見>

【懇談会の意義】

- この懇談会は新しい信州教育を作っていく第一歩（須坂市）
- 県、市町村、市町村同士も、以前に比べ情報の交換の機会が少ない。先進事例の紹介などありがたい。（須坂市）
- この場が意義があるのは、これから子どもたちのことを考えていくと、首長、教育委員会、相互乗り入れして、地域の資源を総動員しないと、地域も子どもも支えきれないため。（長野県）

【一貫教育・学校間連携】

- 保育園と小学校、中学校と高校、大学までの一貫したストーリー性が大事。小学校と中学校が連携することで、中学校の不登校が減った。（須坂市）
- 野沢温泉村では、幼保小中一貫教育・高校連携教育ということで、保育園も教育委員会の所管とし、0歳から18歳まで、村で子どもが生活する間は教育委員会で責任を持つべきだということで、高校も含めて連携している。（野沢温泉村教育委員会）
- 中学校を統合したが、集団生活の活性化に功を奏している。（富士見町教育委員会）
- 統合にあたって、小中一貫教育は、小学校最高学年でリーダーシップを発揮しにくくなるのではとの懸念があり、学校連携はしっかり深めながらも、一貫とはしなかった。（佐久市教育委員会）

【地域における学校のあり方】

- 学校を廃校にするということは、その地域に若い世代が住まなくていいというシグナルとなってしまふ。学校は分校としてでも残していかなければいけない。（長野市）
- 小学校を統廃合したところでは、地域の衰退が進んでいる。（富士見町教育委員会）
- コミュニティスクールの発想を保育園に広げ、コミュニティの活性化に効果を上げている。（富士見町教育委員会）
- これからの学校は、地域全体の学びの拠点、コミュニティの核としてとらえなおす発想が必要。子どもと大人がともに育つという観点から、他施設との連携も重要。（富士見町教育委員会）
- 地域の活性化と学校のあり方は密接に関係している（長野県）
- 小中学校は「小さな拠点」*だと思っている。統合しないという方針できたのは、小学校がなくなると大変なことだという思いから。（須坂市）
- スクールバスの住民利用や、学校の体育館と音楽室は村営施設として住民もしっかり利用できるようにしている。（川上村）

*小学校区など、複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で、分散している様々な生活サービスや地域活動の場などを「合わせ技」でつなぎ、人やモノ、サービスの循環を図ることで、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくらうとする取組

【若者・子育て世代の定着】

- 高校生のアンケートでは、53%が長野を出て、帰ってこないと言っている。残ってもらう、帰ってきてもらうことを明確に伝える。地域に自信を持つことが大切。(長野市)
- (若者が) 戻ってくる、定着についてしっかり考えないと。今年の本県重点施策は「郷学郷就」。この取組を市町村と共有してさらに強化していきたい。(長野県)
- ふるさとに戻ってくる取組として、高校、大学進学の際の入学準備貸付金制度をスタートさせる。(安曇野市教育委員会)
- 限界的な地区も出てきている。保育園入園者がいなくて、保育園が成り立たないところまで追い込まれた地区では、プロジェクトを立ち上げ、保育園児のいる親に戻ってもらうよう誘導政策をとっている。子育て世代の住む場所が一番の課題で、地域振興住宅を整備した。中山間地域の子どもをいかに中山間地域に戻すか、考えていくことが大事。(飯田市)
- 小学生に長野市の将来について話をしたところ、「自分たちが長野市を元気にすると。」小学校の段階からそうした話をしてもらうことが大事。(長野市)

【郷土に学び、地域と連携した教育・特色ある教育課程】

- 地域の特色を活かした教育が大事。川上村では、「郷育」といっている。(川上村)
- 今年度から、教員の本拠地を中心とした人事に取り組み始めたところ。郷土を知り、地域と連携しながら教育を行う方向性を探っている。(長野県教育委員会)
- 全高校で、地域を学び、新たな地域を作り上げることを勉強してほしいということで「信州学」の取組を始めている。(長野県教育委員会)
- スキー科を設定し、指導は村の人たちが行っている。また、保育園から英語学習を導入し、小中にALT、村単で英語の専科教員を配置している。飯山高校の先生にも中学に入ってもらっている。(野沢温泉村教育委員会)
- 子どもたちは、自分たちの住んでいる地区のことを学校でも学ぶが、地域の皆さんからも学ぶことが大事。地域の方との人間関係が形成され、地域への愛着を育むことにもつながる。(飯田市)

【その他】

- 母親のお腹の中にいるときから、発達段階に応じた教育環境のあり方を考えていく必要があるのではないか。(長野市教育委員会)
- 学校施設の利用について、制限側で運用されているのが問題。県も子どもの居場所づくりを進めているが、首長部局だと学校が視野に入っていない。(長野県)

【まとめ】

- 学校と地域経営は一体的に考えなければならない。いろんなご意見を踏まえて、県、教育委員会、市町村、市町村教育委員会と一緒に検討するプロジェクトを立ち上げたい。(長野県教育委員会)
- 目的をはっきりさせた上で、今の制度の枠組みが望ましくなければそこに踏み込んで提案をするようなチームにぜひしてほしい。(長野県)